

(12) 休眠期防除

① 石灰硫黄合剤

(分類コード F:M02, I:UN*)

作物名	病害虫名	防除方法			注意事項
		使用時期	使用濃度	使用回数	
果樹類	サビダニ類 ハダニ類	冬期	20～40倍	—	
落葉果樹	カイガラムシ類 ハダニ類 越冬病害虫	発芽前	7～10倍	—	
ウメ	縮葉病	発芽前	8倍	—	・薬害を防ぐため、12月は10倍液を用いる。開花直前は20倍とし、早咲き花が咲き始めた時に散布する。
ナシ	黒星病	発芽前	7倍	—	・リン片がずれ始めた頃の散布効果が高い。
ミカン	カイガラムシ類 ハダニ類	冬期	20～40倍	—	・防寒被覆除去7～10日後に散布する。
モモ	縮葉病 胴枯病 黒星病	発芽前	7倍	—	・生育期防除は効果が不十分なので、必ず休眠期に防除する。
スモモ	ふくろみ病	—	140倍	—	・発病してからは手遅れなので、必ず休眠期に防除する。
リンゴ	腐らん病	休眠期	10倍	—	・腐らん病の休眠期防除は、枝幹が十分に濡れるように行う。
	黒星病	発芽前	7倍	—	
	モニリア病	—	40～140倍	—	
クリ	芽枯病	発芽前	20～40倍	—	

【すべての防除方法に関する注意事項】

- ・ボルドー剤、銅剤、マシン油乳剤との混用は避ける。
- ・ボルドー剤は散布後3週間以上、マシン油乳剤は散布後1ヶ月以上の間隔をあける。
- ・銘柄(製造会社)によって登録内容が異なるので、商品ごとに登録内容を必ず確認する。

② マシン油乳剤 (95%濃度)

(分類コード F:NC, I:未)

作物名	病害虫名	防除方法			注意事項
		使用時期	使用濃度	使用回数	
落葉果樹	カイガラムシ類 (ブドウを除く)	—	12～14倍	—	・ウメでは葉芽が動き出す前に散布する。ただし、開花期間中は散布しない。
落葉果樹 (ナシ、リンゴ、カキ、モモ)	カイガラムシ サビダニ類 ハダニ類 及びその越冬卵	—	16～24倍	—	・ナシ、カキは、原則として隔年散布とする。
モモ	アブラムシ類	発芽前	25倍	—	
カンキツ	ヤノネカイガラムシ その他カイガラムシ サビダニ ハダニ類の越冬卵	冬期	30～45倍	—	・カンキツでは、葉に油浸斑を生じることがあるが、日数の経過に従って消失する。

【すべての防除方法に関する注意事項】

- ・石灰硫黄合剤、ボルドー液などのアルカリ性薬剤との混用は避ける。
- ・銘柄(製造会社)によって登録内容が異なるので、商品ごとに登録内容を必ず確認する。